

---

# 魔獣の子供達の冒険記

レフェル

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

魔獣の子供達の冒険記

### 【Nコード】

N3107X

### 【作者名】

レフェル

### 【あらすじ】

ルイセとフェリオの子供達とイリアとアルトの子供とフィーナとヴァインの子供とアルゼリアスの子供達のほのぼの冒険記です

## プロフィール（前書き）

上記二名は楽しんでます様からお借りしたキャラです。

それでは、はじめます！

## プロフィール

名前)

アルフレッド・ファルケン

年齢：18歳

性別：男

種族：半魔人

髪の色：金髪

瞳：紫

口調：僕

性格：ぶっきらぼうで人付き合いが悪いが、根は優しい。

武器：形見の剣

魔法：闇系

備考)

リデエア達の護衛役として共に行動することになった。まずは世界を知る為に学園にいれられることになる。リデエアが気になる様子。フェイによく注意されるとか？

\*\*\*\*\*

名前)

リディア・ファルゼス

性別)

女

年齢：16歳

髪の色：赤毛

髪の長さ：ロングヘア

瞳：紫

種族：魔人

口調：ボク

性格：ボクっ子でドジな面がある元気な娘、アルフレッドに気があ  
る。

武器

アサルト・ライフル

魔力で剣を造る。

備考)

リーザとは親友、生まれてすぐ母親のイリアの力を自身の中に取り込む…

その事が彼女に無理をさせる原因になっているらしい。  
ルフエによく懐かれている

周りからは姉妹ように思われているとか？

\*\*\*\*\*

名前)

リーザ・ヴァルゼラート

イメー  
ジ  
容姿

英雄伝説 空の奇跡のエステルみたいな感じ

種族：ハーフエルフ

年齢：18

髪：金髪のロングヘア

瞳：蒼

口調：私

性格

母親譲りの真面目な娘

武装

バイアネット

魔法

回復系

趣味

読書・フェンシング

備考)

リデエアと仲良しの親友でイリアを尊敬している。  
フェイとルフェの遊び相手。

好きな物

動物・童話・魔術書

フェイとルフェとの会話

嫌いな物

リデエアとアルフレッドの邪魔をする人

\*\*\*\*\*

フェイ(息子)・スチュワート

外見子供の頃のクロノ

年齢：13才（推定）

種族）

魔獣

口調：ボク

性格：真面目過ぎて親に反発中

髪の色：蒼紫（獣化中金色）

獣化

子供のフェリオ（大きさは大型犬位）

備考）

お父さんに憧れる少年

背伸びをしようとしては父に叱られる。  
周りから見たらまだまだ幼獣らしい。

\*\*\*\*\*

ルフェ（娘）・スチュワート

性別：女

年齢：12才（推定）

種族）

魔獣

髪の色：赤毛のロングヘア

瞳：緑（獣化の時は赤紫）

口調：アタシ

外見：子供の頃の獅堂・光

性格：少し甘えん坊

獣化

子供のルイセ（大きさは大型犬位）

備考）

お兄ちゃんべつたりの甘えっ子、食べ物に好き嫌いがあるので両親に叱られている。

将来は父親みたいな人と結婚したいらしい。

## 第一話

「さて、と」

「おかーさん！」

ルイセが洗濯物を干しているとルフエが抱きついてきた。いつまでたっても甘えん坊な彼女にルイセは苦笑いを浮かべて振り向く。

「どうしたのかな？」

「アタシもなにかしたい！」

ルイセが笑顔で聞くとルフエは目をキラキラさせて言った。それを聞いて驚いていると

「母さん、ボクも」

「フエイもなの？」

ルイセに近寄ってフエイも言ってきた。それに困っている

「いいんじゃないかな。二人がしたいって言うなら」

「フェリオ、でも……」

フェリオが歩いてきて笑顔で言う、でもルイセは心配でどもる。

「ずっとここに居たら、視野がせまくなるかもしれないよ？」

「それなら旅にだした方がいいと言っの？」

ルイセの頭を撫でてフェリオが笑顔で言うともーっとした様子で言った。

「かあさん、お願い」

「アタシ、頑張るよ！」

フェイとルフエがルイセを見てお願いする。

「…はあ。わかったわ、なら…おつかいを頼もつかない」

「うん！ありがとう、おかあさん！」

ルイセが折れると笑顔でルフエが喜びながら言った。

不安ではあるけど、フェイがいるのだから、大丈夫だろう。

「どこにおつかいに行けばいいの？」

「それは、明日教えてあげるわ」

ルフェが聞くとルイセはくすつと笑ってキッチンに向かった。  
フェイとルフェは明日が楽しみになっていました。

## 第二話 お使いへ行くころ！

フエイ side

どうも、フエイです。

今回はボク視点でいくことになりました。  
よろしく願いします。

「準備は良い？」

「うん！」

お母さんが心配そうに聞くので笑顔で頷く、ボクとルフェ。

荷物は持ち運びが簡単なリュックだけ。  
実はこれ異次元につながる魔法がかかっていて、これに物をいれても全然重くないし。

取り出しも簡単だったりする。

誰が造ったかって？

それはお母さんだよ。こういうのがあると便利だろうからって。

お父さんが苦笑いしていたのを覚えてる。

確か、叔父さんは呆れていたな！。

「ほな、行くで」

「はぐれるなよ」

あ、そうそう。

引率者兼保護者のエレノアさんとサラさんがボク達の旅についてきてくれることになりました。

カレンさんもついては来るそうですよ。

少し気になることがあるんですけど、なぜか。

カレンさんはお父さん人形を大量に造っていたんです。

どうしてそんなに造るんだろうか。エレノアさんに聞いたら知らない方が幸せやと苦笑いで言われた。

「変な人について行かないようにね！それから、無事に帰ってきてね。あとあと」

「ルイセ。フエイ達のこと信用しようよ。それにエレノアさんとサラさんが居るんだから」

ボク等が行こうとするとまだ不安そうなお母さんがかしく言うてきて、それをお父さんがなだめながら言う。そんな心配するようなことかな。

「じゃ、これを頼んだよ」

「うん 頑張るね！」

お父さんがルフェに手紙を渡すとルフェは笑顔で可愛い鞆にい

れる。

さあ、いよいよ。旅の始まりだ。

フェイス side end

\*\*\*\*\*

ルフェイス side

家を出て皆で歩いて叔父さんがいる家に向かう。

二人で行けることを望んでいたけど、少し不安だったから、今の状態は良い方だね。

「にしても、驚いたで。お使いに行きたいやなんて」

「おとなへの第一歩を踏みたかったの！」

隣をエレノアさんが歩いて言うのでアタシは笑顔で答えた。

「それがお使いなのか」

「良い心がけだが、そんなに早くオトナになるうとしなくてもいいんじゃないか？」

サラさんが納得したように言うとカレンさんがこちらを見て言う。  
でも、見た目だけでも年上に見られるんだもん。  
まだまだ、子供なのにさ！失礼しちゃうよね！！

しばらく歩くと街が見えた。

街に着くと日が暮れていて宿屋に泊ることにした。  
明日は冒険ギルドに行ってお金でも稼ごうかな。

せっかくの旅だから、楽しまないかね！！  
決めた！明日相談してみよう！

「部屋割はボクはルフエとになるのかな」

「えー！アタシはエレノアさんとがいい！！」

フエイが鍵を持って言うとアタシは抗議していた。  
だって、いつもと同じになるもん！。  
それが嫌だから、サラさんがエレノアさんのどちらかがいいんだよ  
ね

でも、からかいたいからエレノアさんがいいかも。  
サラさんの旦那さんも凄い素敵な人らしいし。

あー、どっちも気になる！！

「エレノア」

「言わんといて、すみっこでカレンが落ち込んでいるなんて言えひんよ」

サラさんがエレノアさんと内緒話をしていた。

なんだろうと思うっていると宿屋の隅でののじを書いてるカレンさんが居た。

暗いっ！なんで、ああなってるの！！？

### 第三話 ギルドへ行く

ルフェside

朝、起きて宿屋で朝食を食べるとこれからどうするかという話になった。

「はいはい！」

「なんや、ルフェ」

あたしが手をあげて言うとエレノアさんが不思議そうに尋ねた。  
この時を逃す手はないよね

「冒険ギルドに行きたい！」

「なんで、また」

あたしは笑顔で言うとフェイ兄が呆れながら言った。  
だって、行きたいんだもん

「うーん」

「いいんじゃないか？行っても」

エレノアさんが困っているとサラさんがあたしを見て言った。

「せやけど」

「私達がフォローすればいい」

それでもエレノアさんが渋るように言うとカレンさんが近寄ってきて言う。

「うーん……絶対無理しないという約束守れる？」

「うんー！」

エレノアさんがこちらを見て聞くので笑顔で答えた。  
緊張しながら真っ直ぐ見つめていると

「ええよ、でも……うち等から絶対離れたらあかんで」

「うんー！ありがとうー！」

エレノアさんは笑顔で言うので思わず抱きついていた。  
この時、魔獣の姿で抱きついて欲しかったとエレノアさんが呟いていたのは余談です。

「フェイはどないする？」

「ルフエだけじゃ、心配だから一緒に行くよ」

エレノアさんがフェイ兄に聞くとフェイ兄は苦笑いしながら答えた。  
優しい兄をもって幸せだよ

それから数分して宿屋を出て冒険ギルドがある酒場に向かった。

\*\*\*\*\*

酒場に着くと一人の女性が出てきた。

頭には猫の耳があり、尻には猫の尻尾がピコピコと動いてる。  
服装はなぜか、メイド服だった。

この酒場の主人の趣味なのだろうか？

「ここは未成年の子は立ち入り禁止だよ」

「いや、私達は酒場の二階にあるギルドに用があるんだ」

と言うとサラさんがあたしに変わってそう言った。

「ギルド？もしかして、仕事か依頼？」

「どちらかという仕事になる」

女性が猫耳をぴくぴくと動かして聞くのでサラさんはすぐに答える。

「へー、ランクはどのくらい？」

「ミオ、お客様に失礼ですよ」

女性が次を尋ねようとすると綺麗な金髪のふわふわロングヘアの女性が出てきて注意した。

「あ、ツバサ」

「雇い主を呼び捨てとは、お仕置きが必要かしら」

ミオさんといわれた方が笑顔で言つとツバサさんがにっこりと笑つて言う。

あれ、目が全然笑つてないよ。

しかも、すんごいどす黒いオーラを感じるよ!?

「す、すみません。マスター!」

「わかればいいのよ」

すぐにミオさんが平謝りすると笑顔でツバサさんが言う。  
なんだろう、この主従関係は（汗）

### 第三話 ギルドへ行くころ（後書き）

感想と評価をお待ちしております!!

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3107x/>

---

魔獣の子供達の冒険記

2011年10月28日13時24分発行